

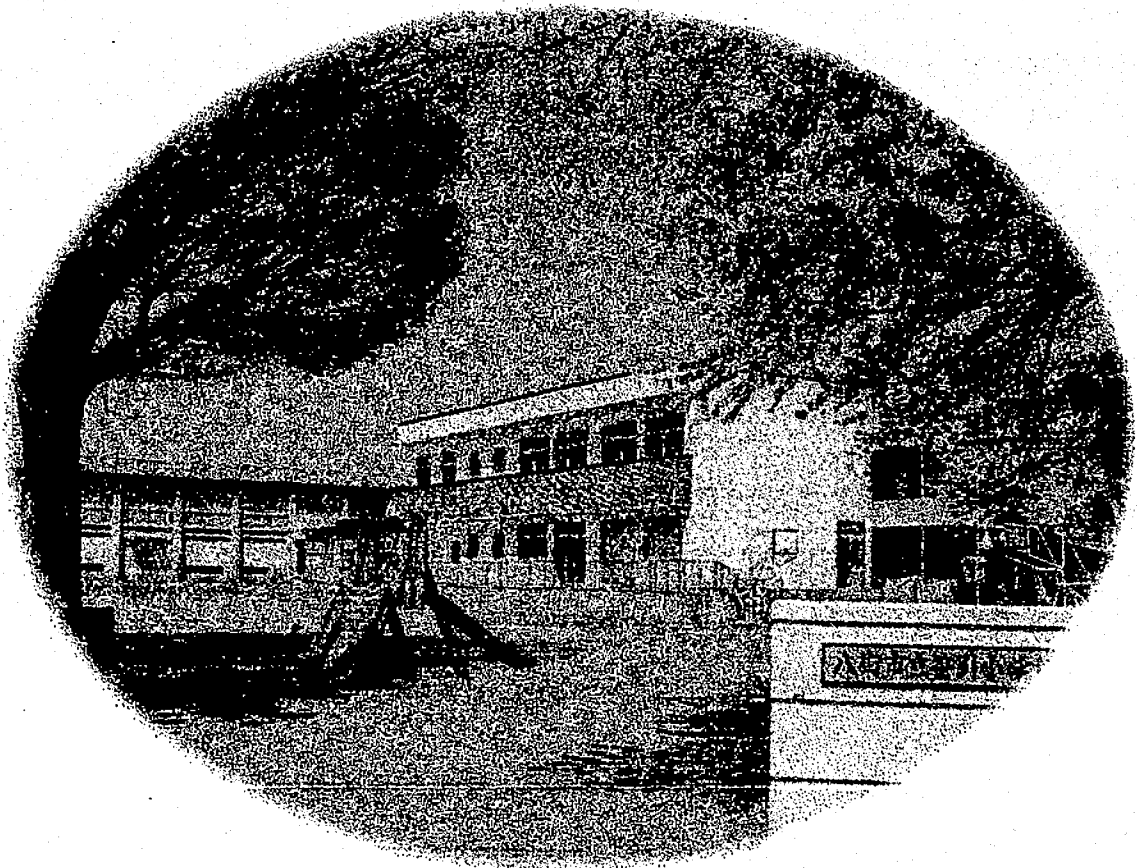
令和元年8月27日

第69次 印旛地区教育研究集会

国語科「読むこと」分散会提案資料

研究主題

主体的に読む活動に取り組み、
自分の考えをもてる児童の育成



八街市立笹引小学校

目次

1 研究主題

2 主題設定の理由

- (1) 学習指導要領から
- (2) 学校教育目標から
- (3) 児童の実態から

3 研究仮説

4 研究基本構想図

5 実践例

- (1) 1学年 むかしのおはなしをたのしもう
『天にのぼったおげやさん』
- (2) 2学年 「レオ＝レオニ作ひんてん」をひらこう
『アレクサンダとぜんまいねずみ』
- (3) 3学年 物語をしょうかいしよう
『わすれられないおくりもの』
- (4) 4学年 わかったことを説明しよう
『花を見つける手がかり』
- (5) 5学年 人物の心情を想像して、物語の続きを描こう
『いつか、大切なところ』
- (6) 6学年 興味のある人物をしょうかいしよう
『伊能忠敬』
- (7) 知的障害特別支援学級
「伝えよう 受け止めよう」
- (8) 自閉症・情緒障害特別支援学級
「2学期に習った漢字を使って短文をつくろう」
- (9) その他

6 成果と課題

1 研究主題

主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもてる児童の育成

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」としている。新学習指導要領においては、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成を目指し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を設定している。

正確に理解する能力と、適切に表現する資質・能力は、連続的かつ同時に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。そのため、まず、主体的に様々な活動に取り組むことで理解をし、自分の考えをもつことができ、そして読みを通してもった自分の考えを書いたり、伝えたりすることを繰り返すことを行うことで、このような「国語力」を身に付けることにつながると考えた。

(2) 本校の教育目標から

本校の学校教育目標は、「心豊かに 瞳を輝かせ 心身共にたくましい児童の育成」である。目指す児童像を「明るくやさしい子」「一生懸命勉強する子」「元気で頑張る子」とし、日々努力をしている。

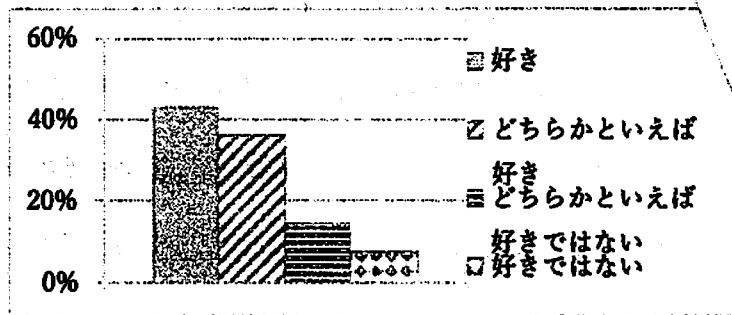
瞳を輝かせ、一生懸命に勉強する児童を育成するためには、受け身の学習ではなく、主体的に学習に取り組むことが大切である。また、自分の考えもち、それを表現することで、友だちと伝え合うことができれば、さらに自分の考えを深めたり、友だちと意見を共有したりすることができ、心豊かに瞳を輝かせ、一生懸命勉強する児童へとつながると考え、本主題を設定した。

(3) 児童の実態から

本校は、平成30年度、児童数 135名で全学年単学級（6クラス）と特別支援学級（2クラス）の小規模校である。クラス替えが無いため、友だち関係を築きやすい面があるものの、切磋琢磨する気持ちをもちにくいところが問題点である。素直で明るい児童が多いが、人間関係力は高いとはいえず、自分の気持ちを伝えたり相手のことを考えたりすることが苦手な児童が多い。地域性として、市街地からやや距離があるため、放課後に学習塾や習い事に通う児童は少なく、宿題以外の家庭学習を行う児童も半数程度である。学習に対する保護者の意識は、高いとは言えない。

＜実態調査＞ 平成30年度1学期

① 国語学習は好きですか。



「好き」「どちらかという好き」を合わせると、約8割の児童が好きと答えた。その中でも好きな学習は、読書16%、物語を読む14%が高く、説明文を読む3%、詩を書く3%が低かった。このことから、児童は、物語などの本を読むことを好む傾向があることがわかった。

② 読書量について

- ・学校での読書の時間は、30分以下が52%と一番多かった。これは、朝読書の時間にだけ読んでいる児童の数と考えられる。

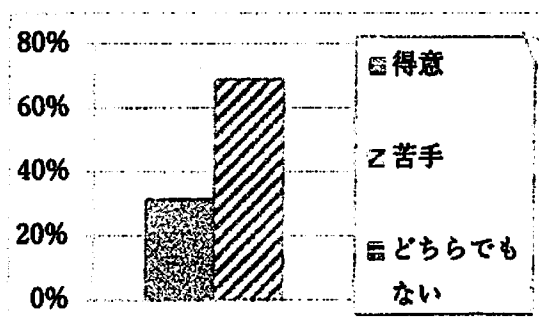
反面、朝読書の時間以外にも読書を楽しんでいる児童が25%いることがわかった。

- ・家庭での読書の時間も、30分以下が50%で、学校での読書時間の少ない児童は、家庭でも読書をあまりしていないことがわかった。

③ 家庭学習について

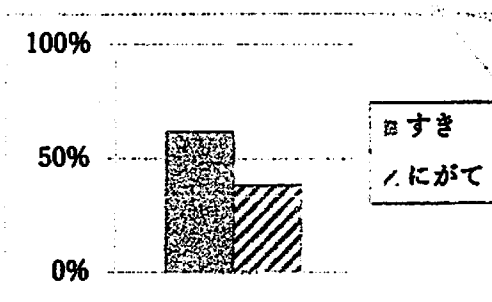
- ・宿題以外の家庭学習については、60%の児童がしていると答えていた。
- ・国語の家庭学習をしている児童は、60%であった。国語の学習に取り組む児童が多いことがわかった。

④ 自分の考えを伝えることは得意ですか。



苦手の理由としては、間違ったらいや、緊張する、答えが不安、うまく説明できない、言葉が見つからない、どう伝えてよいかわからないがあげられていた。

⑤ 書くことは好きですか。



好きな理由としては、楽しいから、人に伝えるのが好き、という答えが多かった。

苦手の理由としては、上手に書けない、字が汚い間違える、集中できない、内容がまとまらない、言葉の使い方が苦手、何を書くのか迷うがあげられていた。

国語科に対する関心意欲は高く、読書も好んでいる。学年に差があるものの、特に相手に伝えることに苦手意識を持っている児童が多かった。少数では自分の考えを伝えることはしようとするが、適切な言葉を選んで話したり書いたりすることが得意でない児童が多い。全体ではなおさらできないのが実態である。国語は嫌いではないけれど、どう表現したらよいかわからなかったり、自分の思いや考えを言葉にできないのがゆさを感じたりしている児童が多い。一方で、自分の考えをもてない児童や、国語は苦手と感じている児童も少なくない。そういう児童は、朝の読書タイムでも意欲的に読書をすることができない。

以上より、児童の関心をもてるような国語活動を設定し、自分の考えを話したり、書いたりして、主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもつことができる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

(1) 仮説1

児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定することで、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

「なぜこの文章を読むのか。」「やってみたい。」「解決したい。」といった、学習意欲や文章を読むことの必要感を児童一人一人がもつことができれば、主体的に読む活動に取り組むことができだろう。そのためには、児童が進んで取り組みたくなる言語活動を設定し、やるべきことを明確にすることが必要である。

さらに、教師が「児童にこの力をつけたい。」というねらいをしぼり、その力をつけるために有効な言語活動を設定することで、主体的に読む活動となり、読む力を高めていくことができると考える。

また、目的意識や相手意識を明確にし、学習の見通しをもたせたり、ふりかえりの時間を確保したりすることで、より読む活動の意義を実感できるであろう。

一方、読む力の根底となる、漢字を含め国語の語句・語彙力を身に付けるために、音読や読書、新聞を活用した学習の充実も図っていく。

〈仮説1 手立て〉

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

- ・児童の関心や経験をふまえ、「読む活動」への必要感につながるような言語活動を設定する。
- ・つけたい力を明確にし、その力をつけるために有効な言語活動を設定する。

② 目的意識、相手意識を明確にした単元構成

- ・児童に学習のゴールを意識させ、見通しをもった学習計画を立てさせる。
- ・「何のために」「誰のために」という目的意識、相手意識を明確にさせる。

③ 読書や音読、新聞を活用した学習の充実

- ・朝の読書や、読書カードを使って、読書の充実を図る。
- ・家庭学習カードを活用し、毎日音読練習をする。
- ・新聞を活用した学習を積極的に取り入れる。

(2) 仮説2

1時間毎の導入を工夫したり、交流活動を取り入れたりすることで、自分の考えをもつことができるだろう。

本時の見通しをもつことのできる導入を行えば、自分で読み取りたい、表現したいという気持ちをもつことができ、自分の考えをもつことができるだろう。また、他者と対話することで、認め合ったり、励まし合ったり、助け合ったりすることができる。これにより、自分の考えに自信をもつことができるだろう。自分一人では解決できない問題も友だちの考えを参考に自分の考えを広げたり、自分とは違った考えを聞いて、自分の考えを深めたりすることができる。

小中連携教育の中で、八街南中学校区で実践している「みなみの学びモデル」に沿って授業展開をし、授業の流れを確立したい。児童も授業の流れを把握していることによって、安心して学習ができる環境をつくり、自分の考えをもつことができると考える。

〈仮説2 手立て〉

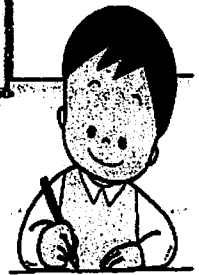
「みなみのまなびモデル」に沿った学習過程

- ① <導入> 1時間毎の導入の工夫
 - ・前時の振り返りから本時の学習のめあてを明らかにする。
 - ・単元のゴールを目指して、本時で何をするのか明確にする。
- ② <自分の考え・意見交流> 児童が一人でじっくり考える場面とともに、他者との交流の場面
 - ・思考の可視化 (サイドライン、付箋紙、ホワイトボード、タブレット、などの活用)
 - ・板書の工夫 (思考ツールの活用など)
 - ・発問の工夫 (交流を深めるための発問、ファシリテーターとしての発問)
- ③ <ちよいたしタイム> 自分の考えの再検討
 - ・ノートの工夫 (付箋紙、思考ツールをつかって)
 - ・友だちとの交流を自分の考えに結びつける工夫 (ワークシートの工夫など)
- ③ <ふりかえり> 学び方への自己評価
 - ・振り返りシートの活用・ 評価の明確化

みなみの学びモデル

①授業の始め

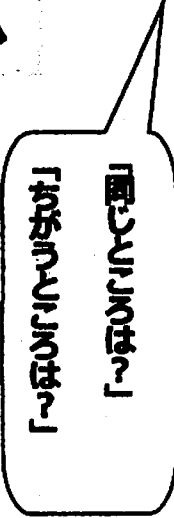
何を学ぶか。



②自分の考え・意見交流

自分の考えと友だちの考えを

くらべよう。



③ちよいたしタイム

くらべたことをもとに自分の考えを

もう一度くみだてよう。

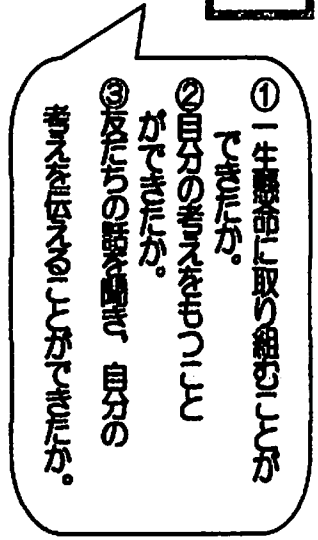
感じたことや分かったことをノートや

ワークシートにつけたそう。

④ふりかえり

●○○△、言葉など

ふりかえり。



4 国語科 研究基本構视图

実態

教科としての関心・意欲・態度は高く、読書も好んでいるが、特に説明文の読み取りや、書くことを苦手とする児童が多い。また、相手に伝えることが、あまり得意ではない。



主題

主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもてる児童の育成



仮説

- 仮説1 児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定することで、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。
- 仮説2 一時間毎の導入を工夫したり、交流活動を取り入れたりすることで、自分の考えをもつことができるだろう。

手立て

<仮説1>

- ①児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定
- ②目的意識、相手意識を明確にした単元構成
- ③読書や音読、新聞を活用した学習の充実

<仮説2>

- 「みなみの学びモデル」に沿った学習過程
- ①導入
 - ②自分の考え・意見交流
 - ③ちよいたしタイム
 - ④ふりかえり

目指す児童像



国語が好き！もっと学びたい！わかりたいと思う児童
友だちと交流して、自分の考えを持つことができる児童

5 実践例

実践例1 1学年

1 単元名 むかしのおはなしをたのしもう 『天にのぼったおけやさん』

2 指導観

【仮説1】

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

・「天にのぼったおけやさん」をパネルシアターで発表するという、ゴールをもたせる。子ども達の好きな劇もやってみたいと考えたが、空に昇ったり降りたりする動きが難しいと考え、パネルシアターにすることとした。ゴールが分かりやすいので、児童は意欲的に音読の練習に取り組み、単元の目標である「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」が達成できると考えた。

② 目的意識、相手意識を明確にした単元構成

・「入学当初から親切にしてもらっている2年生に伝えよう。」という、相手意識を明確にすることで、意欲を高めた。

③ 読書や音読、新聞を活用した学習の充実

・朝読書の充実を図り、家庭学習カードを活用し、毎日音読練習をすることで文章をすらすらと読むことができるようにしていった。

【仮説2】

① 導入

・前時の振り返りをする場面では、前時の場面を代表グループにパネルシアターで発表してもらうことで、本時の学習のめあてを明らかにする。

② 自分の考え・意見交流

・自分の考えをもてるように、読み方の工夫を書き込むことのできる台本を用意し、随時書きこませる。工夫したい部分にサイドラインを引き、どのように読んだら気持ちがより伝わるかを書き込むことで、思考の可視化を図った。

・グループで台本を読む練習をする過程で、登場人物の心情について意見を交換し合うことができると考えた。また、グループごとの発表についての意見交換をすることでさらに、読みの質が深まると考えた。



実践例2 2学年

1 単元名 「レオ＝レオニ作ひんてん」をひらこう『アレクサンダとぜんまいねずみ』

2 指導観

【仮説1】

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

- ・ 心に残った一文の場面を、児童が好きな絵を使って表現する活動を取り入れることで、物語のどの場面を表現し伝えたいかを考えるために主体的に読む活動に取り組むと考えた。
- ・ 自分たちで考えた疑問点を解決することで、主体的に読む活動に取り組めると考えた。

(なぜなぜ読法)

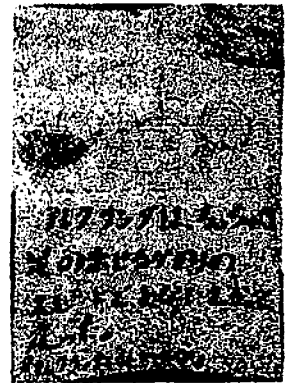
- ・ 同じ形式のワークシートを活用することで、使い方を理解し、主体的に読む活動に取り組むと考えた。

② 目的意識、相手意識を明確にした単元構成

- ・ 「レオ＝レオニ作ひんてん」で保護者へ発表することをゴールと設定し、「お話ししようかいポスター」の教師モデルを提示し、具体的なイメージをもてるようにすることで、自分が選んだ作品を主体的に読む活動に取り組むようになると考えた。

③ 読書や音読、新聞を活用した学習の充実

- ・ レオ＝レオニ作品を読み、読書カードに感想を書くと、完読シールをもらうことができるようにすることで、より積極的に並行読書をするのではと考えた。



<教師モデル>

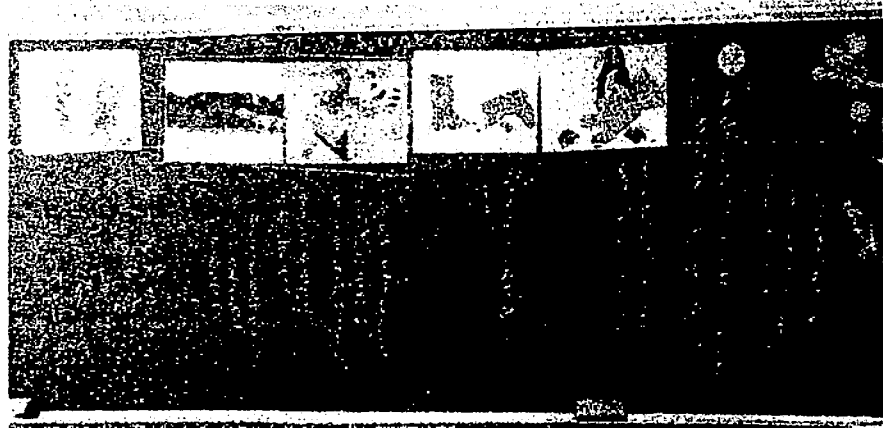
【仮説2】

② 自分の考え・意見交流

- ・ 少人数グループの話し合い活動を取り入れることで、友達に伝えたいという思いをもち、自分の考えをもつと考えた。また、話し合いをすることで、友達と自分の考えを比較したり、友達の考えの共感できる場所を取り入れたりすることができ、自分の考えをより良いものにしようと思えることができると考えた。
- ・ 保護者に発表する際には、グループに分かれて発表することで、保護者の数を分散し、児童の緊張を少なくすることができると考えた。



<少人数グループ>



実践例3 3学年

1 単元名 物語をしようかいしよう 『わすれられないおくりもの』

2 指導観

【仮説1】

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

・本単元を貫く言語活動として、「帯」を作り、物語を紹介することを設定した。学習のまとめの活動として、物語の魅力やよさを紹介する活動を児童に伝えることで、単元全体を通して目的意識をもち、意欲を高めて物語を読みこむことができるだろうと考えた。紹介文を「帯」に書くことで、より短い言葉で自分の思いを表すことができ、自分の紹介したいことが焦点化されることが考えた。

② 目的意識・相手意識を明確にした単元構成

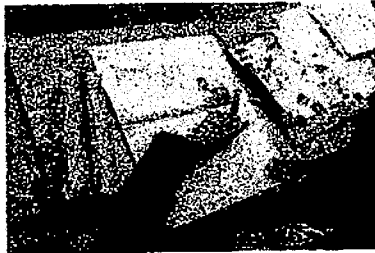
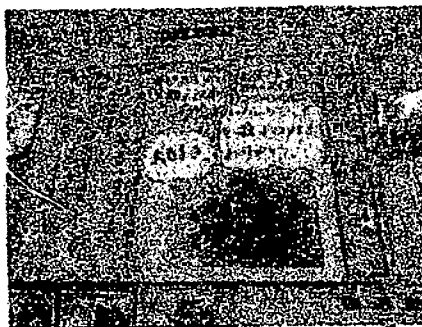
・紹介文を書く際は、紹介する相手や紹介する内容などに目を向ける必要がある。今回の活動では4年生に向けて物語を紹介した後に、反省点や改善点を踏まえ文章を推敲し、よりよい紹介文にすることを想定する。そのため、読み手に伝わる言葉選びや文章の構成などについて慎重に吟味し、グループでの話し合いも活発に行われるだろうと考えた。

【仮説2】

② 自分の考え・意見交流

・今回の学習では、登場人物の気持ちを整理するためにワークシートを活用した。場面の様子や登場人物の気持ちの変化が明確に読み取れるようにする。ワークシートをもとに読み取る活動の中で、積極的に学び合いの学習形態を取り入れていく。それによって自分と違う意見を認め、多様な考えがあることに気付かせる。その際、グループは3～4人程度の少人数とすることで、グループの全員が積極的に意見を交換できるようにする。また、自分の考えを友達と比較・共有する時間を十分に取った。

・「帯」を作成する活動では、互いに作成したものを見せ合い、比較し合うことで、相手の表現のよさに気付いたり、自分の表現を見直したりできるようにした。



このページに…と書かれているから…と思いました。



実践例4 4学年

1 単元名 わかったことを説明しよう 『花を見つける手がかり』

2 指導観

【仮説1】

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

・3年理科のもんしろちょうの学習や4年国語「白いぼうし」ででてきたもんしろちょうについて意識できるように、もんしろちょうの幼虫を教室で育てるなどして、もんしろちょうはどうやって花を見分けるのかという筆者の問いに共感できるような環境をつくっておくことで主体的に読む活動に取り組むと考えた。

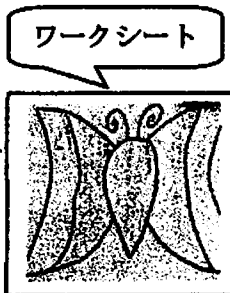
② 目的意識、相手意識を明確にした単元

・現6年生が作ったオリジナル図鑑をきっかけに、自分たちだけのオリジナル説明図鑑をつくりたいという意欲をもったため、学級に生き物についての本を設置したり、事前に図書室の分類について学習し、日常的に図書室を利用して様々なテーマについて興味をもてるようにしておくことで、主体的に読む活動に取り組むと考えた。

【仮説2】

③ 自分の考え・意見交流

・自分の考えをもてるように、何を読み取ったらよいか分かるワークシートを活用し、思考ツールを使って整理することで視覚的に読み取りができると考えた。問題や実験の目的を受けて、「結果（事実）と結論の関係」が読み取れるようにした。

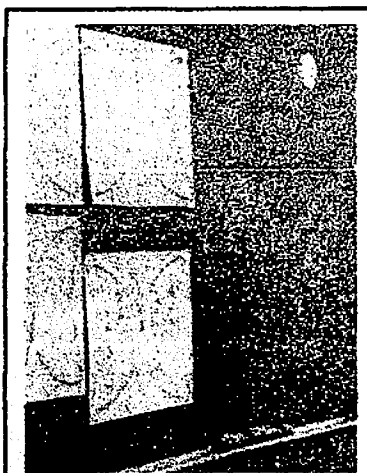
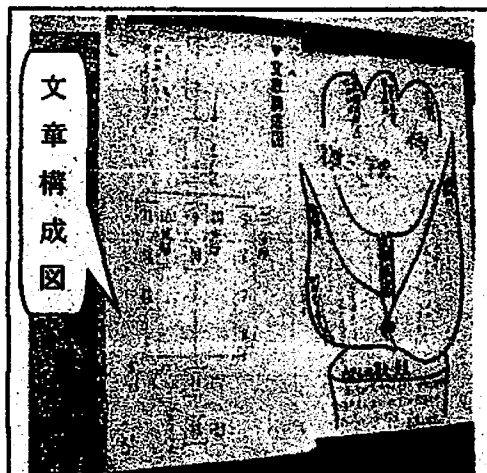


・思考の可視化として文章構成図を掲示し、全体の構成から実験と実験の関係を考えながら文章が読めるようにする。そして、「結果（事実）と意見を区別」して、文章の内容を要約できるようにした。



・文章からわかったことを自分なりに説明する活動は、思考力を要する。

自分のテーマに関する本を読み、本文の書き方をまねながら個々で作文を書き、みんなで一つの文集（図鑑）を作るという自分たちが立てた目標に向かって書くことで、自分の考えをもつことができると考えた。



実践例5 5学年

1 単元名 人物の心情を想像して、物語の続きを書こう 『いつか、大切なところ』

2 指導観

【仮説1】

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

・児童にとって比較的身近な「転校」を題材にした教材であり、心情表現が多く使われている教材でもあるので、登場人物の心情の変化や、それを表す表現を主体的に読み取り、物語の続きを書けるようにさせた。

② 目的意識、相手意識を明確にした単元構成

・物語の続きを書き、それを紹介し合うことを単元のゴールに設定することで、登場人物の性格や考え方、置かれている状況などを理解する必要ができた。そのために心情の移り変わりやそれを表す心情表現を進んで読み取れるようにした。

【仮説2】

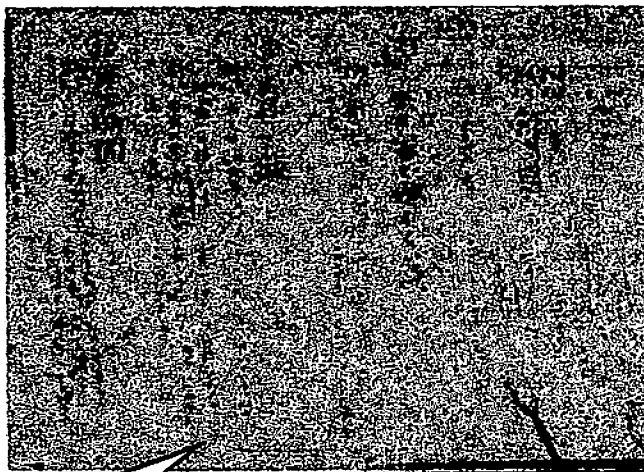
② 自分の考え・意見交流

・中心人物の心情が読み取れる表現にサイドラインを引き、そこから読み取れる心情を付箋紙に書き込み、教科書に貼っていくことで、思考の可視化を図った。

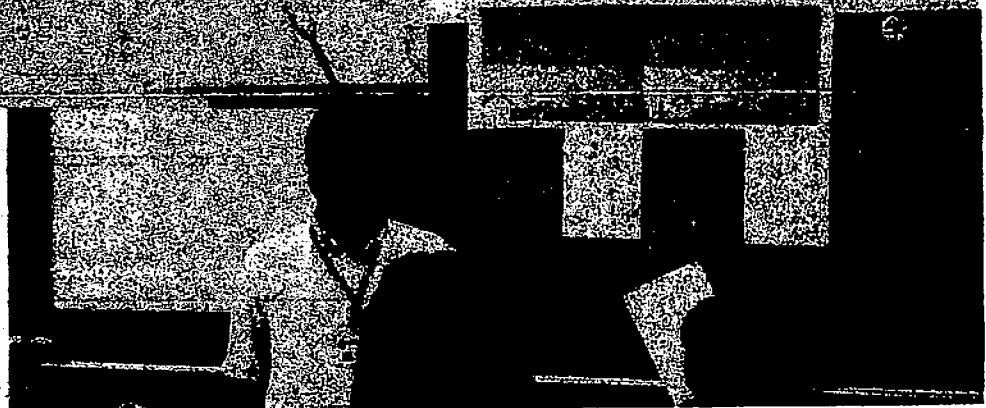
・中心人物の心情を心情曲線で表すことで、心情の移り変わりを捉え、続きの物語を書く際に参考にできるようにした。

・前時までの学習を振り返ることができる掲示物を用意し、自分の考えをまとめる際に参考にできるようにした。

・ワークシートに、友達の考えや、再考した考えを書く場所を用意して、自分の考えの深まりが分かりやすいようにした。



心情曲線



1 単元名 興味のある人物をしょうかいしよう 『伊能忠敬』

2 指導規

【仮説1】

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

・児童は、4年生時に伊能忠敬について、社会科で学んでいる。千葉県を代表する偉人として、何を行ったのか、どのような人生だったのかを簡単ではあるが、学習している。また、6年生の社会科でも扱っている。全く知らない人物ではないので、素直に教材に入ることができる。また、読書活動の中で伝記を読むことは比較的少ない。「伊能忠敬」の生涯を知り、偉人について知ることに素直に面白さを感じさせたり、伝記の本を教室に置いたりすることで、他の伝記にも興味が湧くのではと考える。そこで、自分の興味をもった人物の伝記を読んで、その人物を紹介しながら、その人物についての考えを書く活動をさせていく。その際、その人物の生き方や考え方を捉えて、自分と照らし合わせて考えさせることで、これからの自分の生き方を考えるきっかけにできればと考えた。

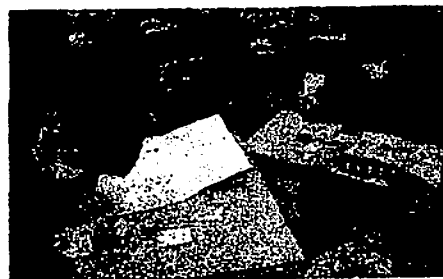
② 目的意識、相手意識を明確にした単元構成

・児童が選んだ伝記本から、その人物の生き方や考え方をまとめた『伝記早見表』を作成し、クラスで1冊にまとめて図書室に展示し、卒業前に図書室へのプレゼントとすることを目的に設定する。そのために、各々が伝記を読んでその人物の生き方を知り、まとめる力が必要になってくる。本単元を、大切な箇所を短くまとめるために年表にまとめたり、偉人と自分とを比較したりして読んでいく。また、6年生教室に掲示してある日本史の歴史年表に、自分たちが調べた偉人を書き加えて、どの時代に活躍していたのかが一目見てわかるようにして、来年の6年生にそれらを残す作業をしていきたいと考えた。

【仮説2】

② 自分の考え・意見交流

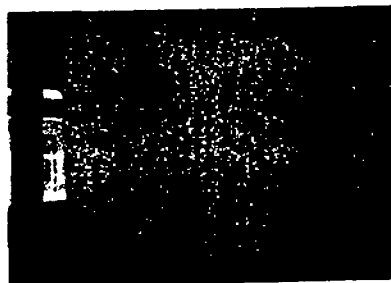
・ポイントになる箇所にサイドラインを引いて、自分の考えをもつためのヒントを示しておくことで、自分の考えをもちやすくした。



・自分の意見をノートやワークシートに書いた後、少人数グループで意見を交換させて、自分の意見に自信をもったり、意見を深めたり広げたりさせていく。時間内に自分の考えがまとまらない時には、グループ内の友達の意見を聞いて、自分なりの考えとしていった。

・少人数グループで意見をまとめるときに、付箋紙を使って意見を集約して、可視化することで考えを整理していく。

・個人で「伝記早見表」を作らせることで、考えを整理させる。



何ができるようになるか

単元を通して、何を身に付けさせたいのか。

- 主人公の思いを深く捉え、自分の生き方について考える。
- ・主人公が、どのような人物か捉える。
- ・どのような考えで、どのようなことをしたかを整理する。
- ・自分との共通点や相違点を比べながら読む。
- ・自分が興味をもった人物について紹介することができる。

何を学ぶか

どの単元で、本時はどこを行うか。

- ・興味のある人物をしょうかいしよう 『伊能忠敬』
- ・伊能忠敬の生き方を考える。(3/11)
(行動をもとに人物像を考える。)

どのように学ぶか

どんな手立てを行うか。

どんな言語活動を行うか。(仮説1)

みなみの学びモデルのどこを重点的に行うか。(仮説2)

- ・「伝記早見表」を作成することを目的に、伝記を読む。(仮説1)
- ・読み取る方法として、行動を年表にまとめた上で人物像や思いを読み取っていく。(仮説1)
- ・ペア・グループ交流を充実させ、自分の考えを結びつける。(仮説2)

1 単元名 興味のある人物をしょうかいしよう 『伊能忠敬』

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の以下の内容を受けて設定した。

「C読むこと」

- イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
- エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
- オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
- カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

本単元は、千葉県民としてもなじみの深い『伊能忠敬』について生き方を考えた上で、興味のある人物の伝記を読んで、その人物に対する自分なりの考えをまとめる活動を設定している。伝記という教材は児童にとって初めてである。5年生時に、『みずぶさがしの旅』を読んでいるが、筆者の生き方を考えるノンフィクションとはいえ、伝記とは異なる。概略ながらも、一人の人物の生き方を読み、考えることは、自分自身のこれからの生き方や考え方を展望するうえでもよい機会であり、この時期の児童にとっては格好の教材といえる。

3. 4年生時では、文章を読んで自分の感想や考えをまとめることをしてきたが、6年生では自分の感想や考えをもつことに加えて、それらをまとめることを重視している。本単元では、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえさせて、興味のある人物の伝記の紹介をさせていきたい。

(2) 児童の実態

本単元を指導するにあたり、次のような実態調査を行った。

(調査人数 男子8名 女子12名 計20名)

設問	回答
1 国語の学習は好きですか。	はい(12) いいえ(8)
2 国語の学習で好きな学習は何ですか。(複数可)	読書(12) 書写(3) 漢字(4) 音読(5) 物語文を読む(9) 文章をまとめる(1) 詩(5) 俳句(9) 短歌(6) 説明文(2) 暗唱(2) 作文(5)
3 国語の学習で苦手な学習は何ですか。(理由も・複数可)	・漢字(8):複雑で、覚えにくい。 ・文章をまとめる(5):まとめ方が分からない。 ・作文(4):たくさん書けない。 ・自分の考えをまとめる(4):まとめ方が分からない。 ・音読(2):わからない読み方があったり、間違えたりすると恥ずかしい。
4 自分の考えをまとめることは得意ですか。	得意(1) すこし得意(9) あまり得意でない(9) 得意でない(1)
5 自分の考えたことを発表することはできますか。	できる(4) すこしできる(8) あまりできない(7) できない(1)
6 文章から聞いていることを正しく読み取ることができますか。	できる(7) すこしできる(11) あまりできない(2) できない(0)
7 文章の内容を簡単にまとめることができますか。	できる(6) すこしできる(8) あまりできない(6) できない(0)
8 ペアで話し合うことは好きで	好き(18) 好きでない(2)

すか。(理由も)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えが分かるから。(4) ・自分にはない意見を聞けるから(3) ・意見を共有できるから。(2) ・人数が少ないと安心するから。(2) ・意見を聞いてもらえるから。(2) ・話すことが好きだから。(1) ・意見をまとめられない(1) ・話し方が分からない(1)
9 全体で話し合うことは好きですか。(理由も)	好き(13) 好きでない(7) <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意見を発見できるから。(7) ・友達の考えがわかるから。(3) ・発表を聞くことが楽しいから。(2) ・話を聞いてくれるから。(2) ・同じ意見だとうれしいから。(1) ・一体感があるから。(1) ・大人数での発表が苦手だから。(3) ・話し合いが滞るから。(1) ・全員に理解させることが難しいから。(1)
10 ペアで話し合うと、良いことは何ですか。(複数可)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分との意見を比べられる。(10) ・友達の考えを聞くことができる。(4) ・安心できる。(2) ・気楽に話せる。(1)
11 読書は1週間でどのくらいしますか。	学校で：40分(13) 30分(3) 60分(2) 学校以外で：30分(4) 0分(3) 60分(2)
12 よく読む本の種類は何ですか。	物語文(17) 科学(3) 図鑑(2) 絵本(3) 伝記(1) その他(漫画5)
13 伝記は好きですか。また、伝記の印象はどうですか。	好き(13) 好きでない(7) <ul style="list-style-type: none"> ・偉い人が書かれた内容(4) ・難しそう(4) ・生き方がわかる(3) ・昔の人の話(3) ・文字が多そう(2)
14 伝記を読みますか。	はい(8) いいえ(12)

国語科の学習が好きと答えた児童は12人と学級の3分の2で、3分の1の児童が国語科に対して前向きでないことがわかった。好きな理由として、読書を好んでいる児童が多かったが、読書をする時間は、学校では1週間に計40分、読書タイムの時間にのみ読む児童が6割近くであった。また、学校外では、週に計30分程度だったので、あまり読書をしているとはいえない。一方で、2時間以上読書をする児童もいて、個人差が大きい。読んでいる本は、物語文がほとんどで、いろいろな種類の本を読んでいるわけではないことがわかった。伝記を読むと答えた児童は1人のみであった。伝記の印象としては、「偉い人が書かれた内容」や、「その人の生き方がわかる文章」など、どのような本かわかっている児童もいた。一方で、「難しそう」、「文字が多そう」という印象をもっている児童もいた。本単元では、「伝記早見表」を作成することを学習のゴールと設定し、あまり読まれていない伝記も単元中に並行読みをさせて、積極的に読むようにさせていきたい。

また、国語科が苦手な内容としては、「文章をまとめる」、「自分の考えをまとめる」、「作文を書く」などであった。その理由としては、まとめ方が分からなかったり、考えがまとまらなかったりすると答えた。また、意見を発表する児童も少ない。自分の考えに自信がもてないのが苦手意識の理由であると考える。ペア学習が好きと答えた児童は9割を越え、友達の意見を聞いたり、自分の意見を話し

たりすることで、自分の考えに自信がもて、安心できるようである。そこで、展開の中で、自分の意見を書いた後、少人数グループで話し合いの場を設定し、自分の考えに自信をもたせていくことで、主体的に発表できるようにさせたい。

(3) 指導観

仮説1 児童の関心や経験をふまえた言語活動を設定することで、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

① 児童の実態や教材の特質に見合った言語活動の設定

・児童は、4年生時に伊能忠敬について、社会科で学んでいる。千葉県を代表する偉人として、何を行ったのか、どのような人生だったのかを簡単ではあるが、学習している。また、6年生の社会科でも扱っている。全く知らない人物ではないので、素直に教材に入ることができる。また、読書活動の中で伝記を読むことは比較的少ない。「伊能忠敬」の生涯を知り、偉人について知る事の素晴らしさを味わわせたり、伝記の本を教室に置いたりすることで、他の伝記にも興味を湧くのではと考える。そこで、自分の興味をもった人物の伝記を読んで、その人物を紹介しながら、その人物についての考えを書く活動をさせていく。その際、その人物の生き方や考え方を捉えて、自分と照らし合わせて考えさせることで、これからの自分の生き方を考えるきっかけにできればと考える。

② 目的意識、相手意識を明確にした単元構成

・児童が選んだ伝記本から、その人物の生き方や考え方をまとめた『伝記早見表』を作成し、クラスで1冊にまとめて図書室に展示し、卒業前に図書室へのプレゼントとすることを目的に設定する。そのために、各々が伝記を読んでその人物の生き方を知り、まとめる力が必要になってくる。本単元を、大切な箇所を短くまとめるために年表にまとめたり、偉人と自分とを比較したりして読んでいく。また、6年生教室に掲示してある日本史の歴史年表に、自分たちが調べた偉人を書き加えて、どの時代に活躍していたのかが一目見てわかるようにして、来年の6年生にそれらを残す作業をしていきたい。

仮説2 1時間での導入を工夫したり、交流活動を取り入れたりすることで、自分の考えをもつことができるだろう。

② <自分の考え・意見交流> 児童が一人でじっくり考える場面とともに、他者との交流の場面

- ・ポイントになる箇所にサイドラインを引いて、自分の考えをもつためのヒントを示しておくことで、自分の考えをもちやすくする。
- ・自分の意見をノートやワークシートに書いた後、少人数グループで意見を交換させて、自分の意見に自信をもったり、意見を深めたり広げたりさせていく。時間内に自分の考えがまとまらない時には、グループ内の友達の意見を聞いて、自分なりの考えとしていく。
- ・少人数グループで意見をまとめるときに、付箋紙を使って意見を集約して、可視化することで考えを整理していく。
- ・個人で「伝記早見表」を作らせることで、考えを整理させる。

3 単元の目標

- 自分が興味をもった人物の伝記を読んで、その人物を紹介しようとする。 (関心・意欲・態度)
- 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。 (書くこと)
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえることができる。 (読むこと)
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画 (11時間扱い)

学習過程	時配	○学習内容	※仮説とのかかわり ●評価規準 (評価の観点)
第一次	1	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。	※「伝記早見表」のモデルを提示し、興味のある人物の伝記を基に「伝記早見表」への作成意欲がもてるようにする。 【仮説1-②】 ●単元の見通しをもち、「伝記早見表」を作成することに関心をもとうとしている。(関心・意欲・態度)
第二次	2	○伊能忠敬の生き方を考える。 ・伊能忠敬が行ってきた行動をまとめる。	※自分の意見をノートやワークシートに書いた後、少人数グループで意見を交換させて、伊能忠敬の行動を整理できるようにする。 【仮説2-②】 ●伊能忠敬の生き方について、出来事を中心に捉え、年代ごとに整理している。(書くこと)
	3 本時	○伊能忠敬の生き方を考える。 ・伊能忠敬が行った行動を基に、人物像を考える。	※自分の意見をノートやワークシートに書いた後、少人数グループで意見を交換させて、伊能忠敬の人物像を整理することができるようにする。 【仮説2-②】 ●伊能忠敬の生き方について、出来事からその人物像をとらえている。(読むこと)
	4,5	○伊能忠敬の生き方を考える。 ・今までの自分と伊能忠敬との生き方を比較する。	※伊能忠敬の行動や考え方から、自分の生き方と照らし合わせて、考えを整理できるようにする。 【仮説2-②】 ●伊能忠敬の生き方や思いから、自分の考えをまとめている。(書くこと)
	6,7	○伊能忠敬の生き方を考える。 ・伊能忠敬の生き方で考えさせられたことをまとめ、自分の考えを書き、感想を交流する。	※伊能忠敬の行動や考え方から、伊能版「伝記早見表」を作成できるようにする。 【仮説2-②】 ●伊能忠敬の生き方について、出来事や人物の思いを整理し、伝記早見表にまとめている。(書くこと)
第三次	8~ 10	○興味のある人物の伝記を読み、その人物の紹介と、その人物に対する自分の考えを書く。	※興味をもった人物の伝記を読んで、その人物を紹介と、その人物についての自分の考えを書けるようにする。 【仮説1-①】 ●さまざまな伝記にはいろいろな構成があることについて理解している。(伝国) ●選んだ人物の伝記を読んで、出来事や人物の思いを整理し、年表に整理している。(書くこと)
	11	○「伝記早見表」を紹介する。	※偉人の生き方や考え方を基に、自分の意見を発表できるようにする。 【仮説1-①】 ※「伝記早見表」をクラスで紹介して、1冊にまとめられるようにする。 【仮説1-②】 ●「伝記早見表」を使って伝記を紹介し、さまざまな偉人の生き方について興味をもつことができる。(関心・意欲・態度)

5 本時の指導

(1) 目標

- 本文を読んで、伊能忠敬の人物像を読み取ろうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 伊能忠敬の人物像に迫る行動や会話、様子を表している叙述を基に、人物像を総合的に創造することができる。 (読むこと)

(2) 展開

時配	○学習内容 ・学習活動	・指導 ※支援 ○評価	資料
3	1 前時までを振り返る。	・前時までの活動を振り返り、ゴールの確認をする。 【仮説1】	年表
2	2 学習のめあてをつかむ。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">伊能忠敬は、どんな人だろう。</div>			
10	3 伊能忠敬はどんな人か、自分の考えを青色の付箋紙に書き出す。 ○伊能忠敬は、何を思って行動したのか、本文から考える。 (予想される児童の反応) ・自分の考えは、間違っていないと思ったから、それを証明したくて調査に出かけたのだろう。 ・このまま続ければ、きっと日本地図が完成することを確信していたから、九州への調査に出かけたのだろう。	・前時までの内容から、伊能忠敬がどのような人なのか読み取って、年表にまとめた複数の事実を基に考えさせる。 ・どの叙述から考えたのかを線で引かせ、根拠を明らかにさせる。 ※どのような人物か考えられない児童には、伊能忠敬はなぜ正確な地図を作ろうとしたのか、理由を考えさせる。	付箋紙 年表 本文 言葉 カード
10	4 自分の意見を基に、少人数グループで意見交流する。	・どの叙述から考えたのか、根拠を基にはっきりと伝えさせる。 ・納得したり、理解したりした意見を赤色の付箋紙に書き足させる。 ※考えがまとまらなかった児童には、グループ内の意見を聞いて、書き加えさせる。 【仮説2】 ○伊能忠敬の人物像を読み取ろうとしている。 (関心・意欲・態度)	付箋紙 年表 本文 言葉 カード
7	5 全体で意見を発表して、すごいところを共有する。よいと思った考えを書き足す。(ちょいたし)	・少人数グループの意見を、代表に発表させる。 ・納得したり、理解したりした意見を書き足させる。 ※考えがまとまらなかった児童には、発表者	付箋紙 年表 本文 言葉 カード

実践例7 特別支援学級

1 単元名 「伝えよう 受け止めよう」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、特別支援学校小学部学習指導要領 国語科の目標

日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それら表現する能力と態度を育てる。

に基づいて設定したものである。

本単元では、意志の伝達方法である電話を児童が使用したことがないという実態から、電話の使い方を身につけさせていきたい。そこで電話の取り方、かけ方、メモの取り方、遊ぶ約束の仕方などの活動を設定した。電話の取り方やかけ方、相手が自分の知っている人、そうでない人との話し方の違いなどに触れ、電話の使い方、マナーについて学習を進めていく。

今までに5年生児童は、漢字の読み書き練習や教科書の物語文や説明文の音読、学校のルールに関する標語を考え、ポスターを作る学習などを行ってきた。6年生児童は漢字の読み書き、教科書の物語文や説明文の音読では、わからない言葉を辞書で引き語彙を増やし、言葉の発声練習を行ってきた。一方で、これまで児童が成長して社会で必要となっていく「話すこと、伝えること」の機会が少なかった。そこで、電話という外部との関わりを通して、学んだことを表現する場面を設定することで相手に正しく伝えたいことを伝えることができるようにさせていきたいと考えた。

(2) 指導観

本題材は5時間扱いで、1時間目では、電話を使ったことがあるか問い、それぞれが電話にまつわる体験を発表する。電話は必要であるのか、電話の意義について考え、電話を使用することを通して顔の見えない相手に遊ぶ約束をするという単元のゴールを決める。2時間目では、電話の取り方とかけ方の言葉を学習する。どんな内容の電話でも使えるセリフを黒板に掲示し、見ながらスムーズな電話対応の仕方を練習させる。3時間目では、電話の相手の話す内容の受け止め方について学習させる。電話の相手が話しているのをただ聞いているのではなく、思考ツールとして4W1Hのメモである通称にゃんこチャートを使い、伝えられたことを書き留めさせたい。聞いた内容を整理させることでメモの利便性を知らせる。本時である4時間目では、電話での意思の伝え方のかけ方を学習させる。こちらもセリフを黒板に掲示、見ながら練習させる。にゃんこチャートを使い、伝えたいことを整理させることでメモの必要性を実感させる。5時間目では、前時までに電話の取り方とかけ方の学習を行ってきたことを踏まえ、児童それぞれが立てた遊びに行く計画を電話で友だちに伝え合う場面を設定する。話し手と聞き手それぞれにゃんこチャートに内容を整理させ、今まで学習した内容を実践しまとめさせる。この単元を通して、児童が電話をかけなければならない時に、相手に自身の意志をわかりやすく示すことを目標とした。

担任と

通級学級担任と

担任と

電話で使う言葉

「～と申します。～さんのお宅ですか。」

「～さんお願いします」

「はい、ぼくです。私です」

「少々お待ち下さい」

「出かけています」

「もう一度お願いします」

実践例8 特別支援学級

1 単元名 「2学期に習った漢字を使って短文をつくろう」

2 単元について

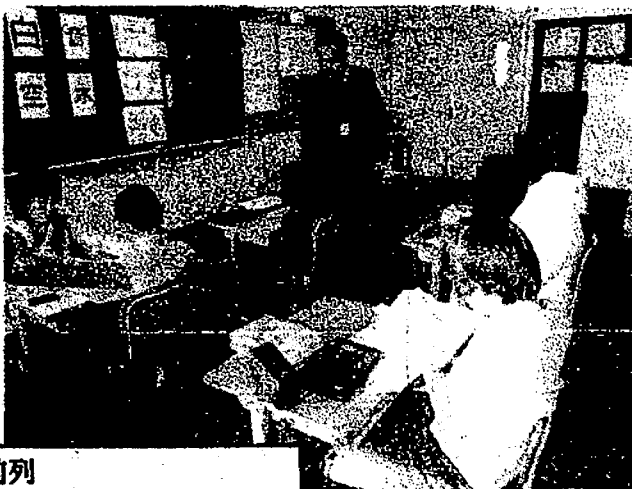
本単元は、特別支援学校小学部学習指導要領「自立活動」の目標

個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達的基础を培う。

特別支援学校小学部学習指導要領第2章「各教科・国語」の目標

日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それらを表現する能力と態度を育てる。

本単元では、集団で学習するために、各学年の国語学習の内容を自立活動に取り入れ、今までに学習した内容を幅広く活用しなければならない課題、思考力や表現力を高めるための課題を集めて単元構成した。これは、自分の考えを発表することで自立活動の目標である「見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を高める」を達成することにつながると思った。また、クイズ的な漢字の学習を取り入れ、楽しみながら学習できるようにした。自立活動における自分のよさに気付くようにしたり、自信がもてるように励ましたりして、「心理的な安定」を図り、活動への意欲を促した。また、「人間関係の形成」では、相手の言葉や表情などから、立場や考えを推測するような指導を通して、相手と関わる際の具体的な方法を身に付けさせていく。さらに成就感を味わうことができるような活動を設定し、自己を肯定的にとらえることにつながると思った。「コミュニケーション」では、協力して一緒に考えることや、話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したり自分で内容をまとめたりしながら聞く能力を高めるとともに、わからない時に聞き返す方法や相手の表情にも注目する態度が身に付くような指導を取り入れた。また、能力の高い児童に対しては課題の条件を工夫し、持っている技能を十分伸ばすことができるようにさせた。



前列

1年生2名と支援員

後列

4年生と5年生

「給食」という漢字で短文発表
「給食のデザートが1個なくなっている。え、さっきまであったのに」



実践例9 その他 年間を通しての四年生の取り組み実践

<国語科>

「ひとつの花」

○ゴールの設定を「本の紹介」にし、単元が始まったところに、戦争関連の本を30冊ほど司書さんをお願いして学級に置き、自由に読める環境をつくった。廊下掲示用で300字程度の作文をした。

○要旨のとらえ方として

- ① どんな主人公が
- ② どんなできごとで
- ③ どのように変わったか

児童から出た言葉

- ① わがままな、ちょっと幸せな…など
- ② 戦争で、コスモスをもらって…など
- ③ 優しい、わがままじゃなくなった…など

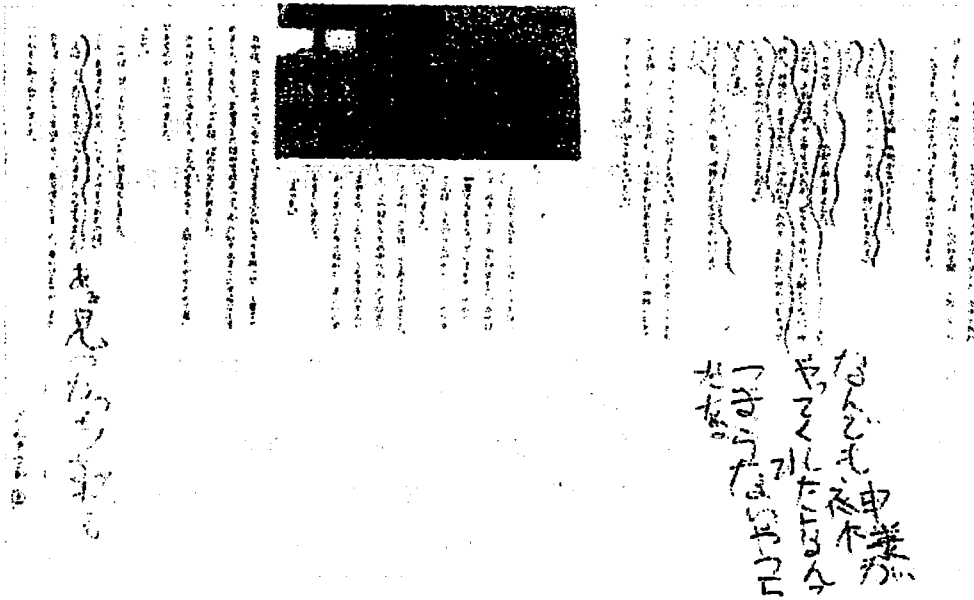
これだけで国語が苦手な児童もあらずじがつかめた。

○なぜなぜシリーズ

- ① 初発の感想を書く。→感じたこと、疑問に思ったこと、よくわからないことなど
- ② 疑問を8つにしぼってワークシートにする。
- ③ 文章を読み、自分の考えを書く。
- ④ 話し合う。(今回は全体で、グループ活動を入れても◎)
- ⑤ 自分の考えをまとめる。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
なぜお父さんの眼を 見ていたのだろうか。	戦争はなぜ起きたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。
戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。	戦争はなぜ続いたのか。 戦争はなぜ続いたのか。

「ごんぎつね」・・・要約の工夫



教科書のコピーで書き込みができるようにし、一冊の本になるようにした。

「うみがめの命をつなぐ」・・・説明文を要約して原稿用紙1枚にまとめる。

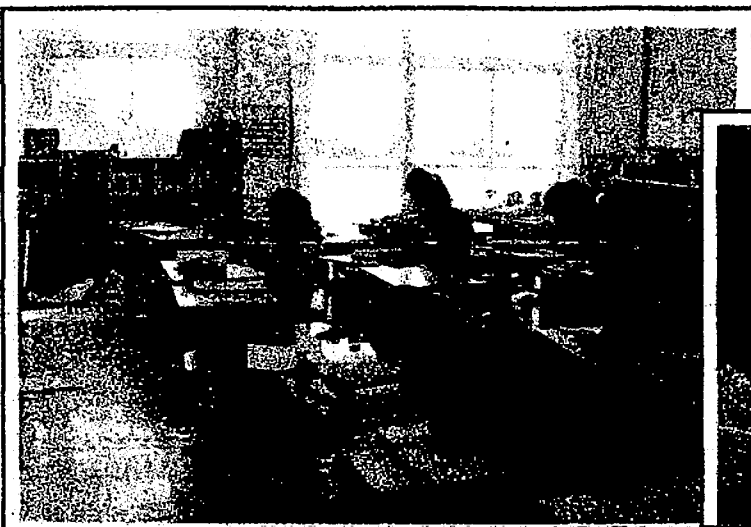
★ポイント★

- パンフレット型にすることで、原稿用紙1枚に短くまとめようとする。
- テーマを3つにしぼって選ばせる。(水族館の取り組み・ウミガメが長い旅をすること・研究について)

<総合的な学習の時間>

書くことが苦手な児童がほとんどだったので、掲示物などで意識的に文章をとにかく書かせた。総合的な学習の時間では、原稿用紙に毎時間のふりかえりを5分間で区切って書かせることで、今日の学習でわかったことや考えたこと、これからのことを文章化した。それを1年間分まとめて、巻物にすることで、達成感を味わわせた。

ひたすら黙って、書きます。
原稿用紙をどんどんはりあわせて、
ながーいロールにします。



<家庭学習>

学校統一で年度当初に保護者向けの文書を配付した。音読カードを自学カードと一緒にし、毎日できるように促した。

『ささびきっ子』 かていがくしゅう 家庭学習のやくそく

じどうがく
(児童用)

うき がくしゅう お家で学習する時に、あ 見るところにはりましょう。

時 分 ~ 時 分

に毎日 がくしゅう 学習します。

- テレビや音楽は消し、ゲームやマンガは かたづけてから はじめます。
- まず しゅくご 宿題から はじめます。
- つぎに じしづがくしゅう 自主学習に取り組みます。(4,5,6年生)
- さいごに つぎ 次の日の用意をします。
わすれ 忘れ物がないように、よく確認しましょう!

かていがくしゅう 家庭学習カード(4,5,6年生) (年・名前)

保護者のみなさまへ

毎日、決まった時間に向けて学習することがとても大切です。家庭学習のサポート、よろしくお願いたします。家庭学習の時間の記入、初日と自主学習の確認をし、印またはサインをお願いします。

毎日の家庭学習の時間(目安) 学年×10分

日	家庭学習時間	目 題	自主学習(学習)の内容	初日記入	確認印	保護印
	~					
	~					
	~					
	~					

<読売ワークシート>

読売新聞が毎週作成しているものです。年度初めに申し込みをして、毎週水曜日にメールで届きます。3~5種類程度、新聞記事からワークシートが作成されているので、発達段階や児童の興味関心に沿って選択しています。文章から大事な言葉を抜き出す力や、全体を要約する力、関連した言葉の広がりなどの力がついてきます。

本校では、木曜日以外に10分間のスキルタイムがあり、水曜日はこの読売ワークシートを実施することとしました。



高学年を中心に、
掲示ホルダーに入れて
教室内に掲示しました。

ワークシートによって、オリジナルデザインがあったり、それぞれの考えを書くものがあったりし、みんなで見合うことができました。

ワークシート通信 **オレンジ色のほおずき**



【1】みなさんのまわりに、ほおずきのようにオレンジ色のものを、たくさん探してみましょう。

ほおずきは日に当たると、きれいなオレンジ色の葉をつけます。もしかしらぬらぬらした葉は、おもしろい。

浅草夏の号令

東京浅草地区の浅草寺で9日、江戸時代から続く伝統の「ほおずき市」が始まった。風鈴の音が響く境内には鮮やかなオレンジ色のほおずきを並べた約100店が出店し、額装や盆飾り用に買い求める人でにぎわった。

【2】あなたが、なにになると楽しみにしていることは何ですか。書きましょう。

読売新聞

ワークシート通信 **サニブラウン0秒97**

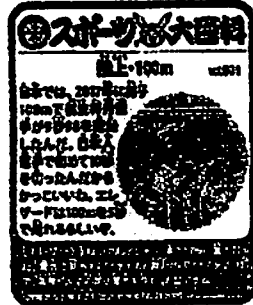
【1】男子100メートルの日本記録保持者、サニブラウン大(20)の9秒97。女子100メートルの日本記録保持者、山本舞花(20)の12秒97。男子100メートルの日本記録保持者、サニブラウン大(20)の9秒97。女子100メートルの日本記録保持者、山本舞花(20)の12秒97。

9秒97 サニブラウン100m日本新

【オースティン(米テキサス州)一週刊誌】陸上の金米大平選手が7日、テキサス州オースティンで行われ、男子100メートルでサニブラウン・ハキーム(20) (フロリダ大) が9秒97 (加1週0.1秒) の日本新記録をマークし、3位に入った。

男子100m日本新10位

順位	選手名	記録
1	サニブラウンハキーム	9秒97
2	山本舞花	12秒97
3	山本舞花	12秒97
4	山本舞花	12秒97
5	山本舞花	12秒97
6	山本舞花	12秒97
7	山本舞花	12秒97
8	山本舞花	12秒97
9	山本舞花	12秒97
10	山本舞花	12秒97



【1】これまで、男子100メートルの日本記録を持っていた選手の名前と、記録を書きましょう。

選手名	記録
-----	----

【2】この選手の名前と、記録を書きつけている選手の名前と記録、書きましょう。

選手名	記録	記録
-----	----	----

読売新聞

★ 「ささびきっ子」 これだけはやろう 3カ条

- 一 早寝・早起き・朝ご飯
- 二 テレビ・ゲーム・パソコンやスマホなどの使用は、
家庭で“約束”を決めて使用
- 三 毎日、決まった時間に机に向かい 家庭学習

◇ 学習時間のめやす (学年×10分以上)

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
学期中	10分間	20分間	30分間	40分間	50分間	60分間
休業中	40分間		60分間		100分間	

◇ 保護者がよき「学習サポーター」になりましょう ～学習しやすい「環境」づくりを～

- ① 5時間の学習
- ② 2学期内容のチェック
- ③ 学習用具の確認
- ④ 学習中テレビを消す
- ⑤ 整理整頓への推進かけ



★ 自主学習のヒント (宿題のほかは何をやったらよいか、悩んだら・・・)

読書	・・・お気に入りの児童書を大人と一緒に読んでみましょう。
漢字の読みまわし	・・・「クニ」や「ノ」の漢字を辞書で調べたり、先生に聞いてみましょう。 学校で習った漢字が正しいかどうか確かめてみましょう。
算数	・・・苦手な計算問題を繰り返し練習できるまでがんばりましょう。
生活行動観察	・・・家族や近所の方の生活を観察し、その特徴をスケッチしてみましょう。 お家に生きている植物や動物の観察日記や絵の描き方について調べてみましょう。
地理の仕方	・・・電子工作から学ぶ世界の気候や地形のしくみを調べてみましょう。
防災学習	・・・世界や国について、1冊の本を読むか、テレビや新聞、防災の書籍を通して、パソコンのしくみを調べてみましょう。 お家の防災計画について、家庭会議を開いて、家族で話し合ってみましょう。

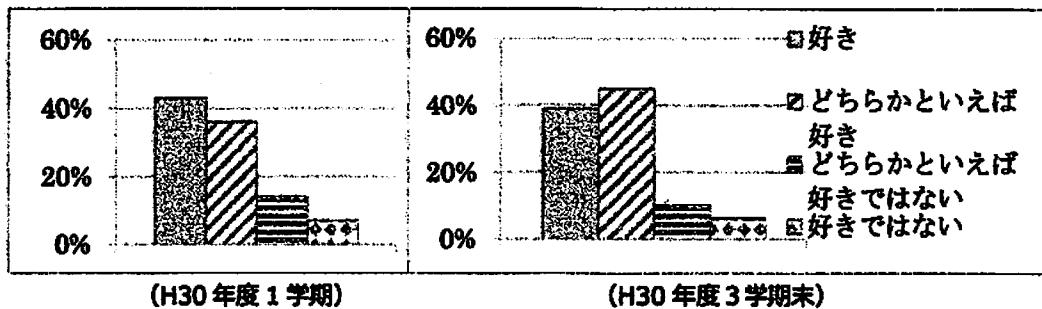
★ 各学年で身につける内容

1年生	2年生
<ul style="list-style-type: none"> ① 鉛筆を正しく持って字が書ける。 ② 200字の配当漢字の読み書きができる。 ③ 漢語(全、ハ、ニ)を使い分けて、簡単な漢字が書ける。 ④ 180字の配当漢字の読み書きができる。 ⑤ 漢字の読みが分る。 ⑥ 100字までの漢字の読み書きができる。漢字の構成が分る。 ⑦ 漢字の意味が分る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 160字の配当漢字の読み書きができる。 ② 教科書を中心とする読める。 ③ 漢字をよみかきしたり読んだりすることができる。 ④ 漢字の読みが分る。 ⑤ 漢字の意味が分る。 ⑥ 漢字の読みが分る。 ⑦ 漢字の意味が分る。 ⑧ 漢字の読みが分る。
3年生	4年生
<ul style="list-style-type: none"> ① 200字の配当漢字の読み書きができる。 ② 漢字の意味が分る。 ③ 漢字の読みが分る。 ④ 漢字の意味が分る。 ⑤ 漢字の読みが分る。 ⑥ 漢字の意味が分る。 ⑦ 漢字の読みが分る。 ⑧ 漢字の意味が分る。 ⑨ 漢字の読みが分る。 ⑩ 漢字の意味が分る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 200字の配当漢字の読み書きができる。 ② 漢字の意味が分る。 ③ 漢字の読みが分る。 ④ 漢字の意味が分る。 ⑤ 漢字の読みが分る。 ⑥ 漢字の意味が分る。 ⑦ 漢字の読みが分る。 ⑧ 漢字の意味が分る。 ⑨ 漢字の読みが分る。 ⑩ 漢字の意味が分る。
5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> ① 185字の配当漢字の読み書きができる。 ② 小説の読みが分る。 ③ 漢字の意味が分る。 ④ 漢字の読みが分る。 ⑤ 漢字の意味が分る。 ⑥ 漢字の読みが分る。 ⑦ 漢字の意味が分る。 ⑧ 漢字の読みが分る。 ⑨ 漢字の意味が分る。 ⑩ 漢字の読みが分る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 小学校の配当漢字の読み書きができる。 ② 漢字の意味が分る。 ③ 漢字の読みが分る。 ④ 漢字の意味が分る。 ⑤ 漢字の読みが分る。 ⑥ 漢字の意味が分る。 ⑦ 漢字の読みが分る。 ⑧ 漢字の意味が分る。 ⑨ 漢字の読みが分る。 ⑩ 漢字の意味が分る。

6 成果と課題

(1) 児童の変容

★アンケートより★ 国語の学習は好きですか。



- 国語の学習が好き、またはどちらかといえば好きな児童が若干数増えた。また、どちらかといえば好きではない児童が減った。
- 「どんな学習が好きですか」のアンケートには、物語を読むこと、話すこと、書くことの学習が好きな児童が増えていた。
- 読書量が、全校児童一年間で、平成29年度は3812冊、平成30年度は3918冊と徐々に増えている。

★千葉県標準学力検査 結果より★

国語科	H28 4年	H29 4年	H30 4年
読む領域	61.2	62.4	73.9
国語合計	63.9	63.4	70.9

<同じ児童の変容>

国語科	H29 3年	H30 4年
読む領域	48.3	73.9
国語合計	65.0	70.9

- 第4学年（違う児童）で比べると年々、読む領域で、点数が上がっている。
- 同じ児童の変容として、3学年から4学年で、国語科合計と読む領域で点数が上がっている。
- 特に研究をした30年度は、読むことや書くことに抵抗がなくなってきて、点数にも結果がでてきている。
- 他教科や他学年においても、国語科を中心に学力が向上し、文章を読み取るなどの力がついてきている。

(2) 研究仮説についての成果と課題

仮説1

児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定することで、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

- 目的意識を設定（ゴールを設定）することで、読む活動が積極的になっていった。子どもがやりたいことをもとに設定するとさらに意欲が高まった。
- 魅力的な言語活動を設定することで、読む必要感が生まれて主体的に活動できた。
- 読み取る力は、要約方法を簡単にしたらスムーズにできて自信につながった。
- 活動によって意欲が変わるため、どんな言語活動があるのかを示し実態に合わせたものを選ぶとよい。
- 全ての単元で、興味関心をもとに言語活動を設定することは、時数的に難しい。
- 主体的に読めたかをはかる基準や、具体的な子供の姿を明確にすれば、もっと成果をあげられたのではないかと。

仮説2

1時間毎の導入を工夫したり、交流活動を取り入れたりすることで、自分の考えをもつことができるだろう

- 交流活動では、児童一人一人の自信につながり、発表の練習にもなっていた。
- 自分の考えをもつことができるように、書くことを意識して取り組み意欲が高まった。
- 交流活動によって、自分の考えをもつことの必要感が生まれた。
- 自分の考えがもてても、それを伝え合う力がもっと必要である。
- 交流の仕方はそれぞれのため、さらに工夫が必要である。
- 交流した後、自分の考えに結び付ける流れが上手く作れなかった。

(3) 今後の研修について

「主体的に読む活動に取り組み、自分の考えをもてる児童の育成」を目指して2年間研修をしてきて、自分の考えをもてる児童が増えてきたことから、これからは、それをアウトプットできるように、思考力や表現力をつけさせるために、どんな手だてが有効かを研究していきたいと考えている。

2年間の国語科の研修は、基本的なことから少人数で研修を進めて、教師側が楽しんで、授業などを工夫していくことで、児童の学力や意欲が高まることを実感した。これからも、子どもたちのために、教師一丸となって研鑽していきたい。